



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

決勝レポート

2024/10/13 Rd-7 FUJI SPEEDWAY

天候：晴れ 気温：26°C 出走台数：21台

観客数：12日(土)18,600人 13日(日)24,800人 合計43,400人

2レース制で開催される第6大会 Rd7 富士スピードウェイ決勝。僅差で並ぶ上位3名から抜け出し、最終大会鈴鹿に臨むため、DOCOMO TEAM DANDELION RACING にとつて緊迫の一戦となる。

2列目スタートの牧野選手は抜群のスタートで2番手に浮上。太田選手もスタートで4台を抜き 10番手までジャンプアップしてオープニングラップを周回した。

2周目に入った1コーナーでのストップ車両により、レースは早々にセーフティーカー(以下SC)が入る。7周目にSCがピットに戻り再スタート。チームはピットストップウインドウがオープンする10周を終えたところで牧野選手をピットに呼びタイヤ交換を済ませる。直後の12周目、1コーナーでの接触によるストップ車両が発生し再びSCが導入されると、太田選手を含むステイアウトしていた全車がピットロードへ。

タイヤ交換組2位を走っていた牧野選手と、コースに戻る佐藤選手は、共に第2SCラインを先にクリアしようとする際に接触してしまう。わずかに佐藤選手がSCラインを先行していたため、牧野選手は佐藤選手にポジションを譲り、17周目のリスタート時点で4番手。その後 佐藤選手を攻略して3番手に上がるがここからトップ3は膠着状態に。

太田選手は、ピットストップ後ハイペースで次々と順位を上げ5番手まで浮上。

レース後半に入った32周目のTGRコーナーで2台がクラッシュ。3度目のSC導入となる。2台のマシン回収済んだ39周目にレースはリスタート。牧野選手、太田選手共に残り3周を激しく攻めるが、ポジションアップならず牧野選手3位。太田選手5位でレースを終えた。 *レース終了後、佐藤選手に対し、牧野選手との接触により10秒加算のペナルティーが出された。また再車検で最低重量違反により失格という裁定が出され、太田選手は4位となつた。

5：牧野任祐 選手 3位

10周終了後のミニマムでタイヤ交換をしたメリットは、直後のSC導入で生かすことが出来ず、佐藤選手との接触によるバランス悪化もあり、思うような展開には持ち込めませんでしたが、自力で3位表彰台獲得できたことで最終戦につなげることは出来ました。ポイント差は開いてしまいましたが、残りは鈴鹿で2レースありますからまだまだ挽回は出来ます。最終JAFグランプリ鈴鹿に向けチームとともにしっかりと準備して臨みます。

6：太田格之進 選手 4位

14番手から4位までポジションアップでき、チームポイントにも貢献できました。昨日の不調からセットアップを変え、大きなゲインが出来たことは、最終鈴鹿ラウンドに向けてもポジティブな結果です。牧野選手にはドライバータイトルを取ってもらいたいですし、私もチームチャンピオンを取るべく、結果でチームに貢献したいです。